

# 台湾

回復基調が鮮明に

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 松田 健太郎

E-mail : matsuda.kentaro@jri.co.jp

## 輸出が回復をけん引

台湾経済は回復基調が続いている。2016年7～9月期の実質GDPは、前年同期比+2.0%と、前期(同+1.1%)から加速し、15年1～3月期以来の高水準となった。

背景には、15年4～6月期以降低迷が続いていた輸出の持ち直しがある。

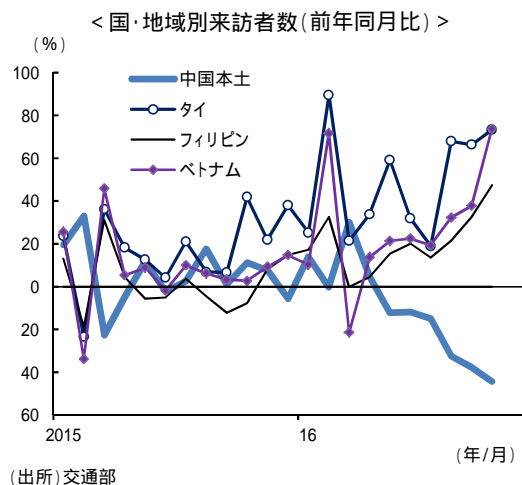
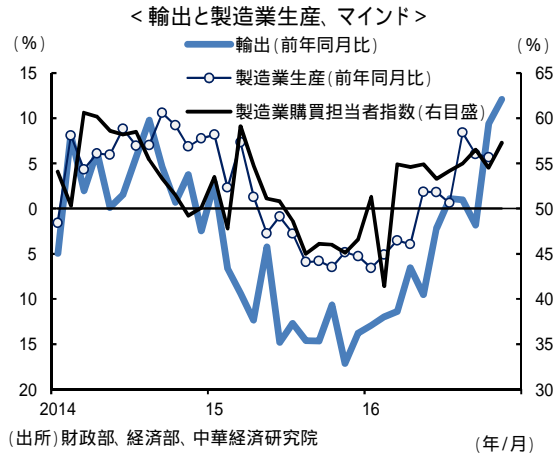
足元の輸出動向をみると、11月は前年同月比(以下同じ)+12.1%と高い伸びとなった(右上図)。品目別では、新型スマートフォン発売を受けて半導体などを含む電気機器が+17.9%と大幅に増加したほか、過剰供給の緩和などから鉄鋼も+15.5%と増加が続いている。国別では、これまで低迷が続いていた中国向けが+23.4%、米国向けも+9.1%と強い伸びとなるなど、台湾の景気けん引役である輸出の復調が鮮明になっている。

輸出の回復に伴い、主要産業である電子部品を中心に製造業の生産も持ち直しが続いている。10月の生産動向は、電子部品が+14.1%と好調に推移し、製造業全体では+5.7%となった。こうしたなか、景況感を示す製造業PMIも50を上回る水準が続いており、企業部門の回復が続くことが予想される。

もっとも、輸出の先行指標となる輸出受注が16年8月をピークに鈍化しつつあることが懸念される。足元の新型スマートフォン向け電子部品の受注が一服したことを示唆しており、輸出の増勢がピークアウトに向かう可能性がある。世界的に保護主義政策への懸念が高まっていることもあり、今後の輸出動向には注意が必要である。

## 東南アジアからの来訪者が急増

5月に民進党の蔡英文政権が誕生して以降、中国本土からの来訪者数は急減し、10月には44.3%の減少になった(右下図)。一方、新南向政策により東南アジアと結びつきの強化を図るなか、タイ(+73.2%)やフィリピン(+47.4%)からの来訪者数は増勢を強めている。こうした背景には、東南アジアや南アジアの国を対象としたビザ免除措置の実施が指摘できる。8月にタイ、9月にはベトナム、フィリピンなど段階的に緩和対象国を拡大している。東南アジアからの来訪者は全体の1割であり、4割を占める中国本土からの来訪者減少を補うまでには至らない。しかし、今後も新南向政策の浸透によって、サービス輸出の下支えが期待される。中国依存の経済構造からの転換を図る蔡政権の外交・通商政策に注目する必要がある。



当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。